

調味料・調味食品製造技術の最新動向

編集部

調味料・調味食品市場の新製品開発が進展している。実態経済の冷え込みを背景に消費者の内食志向の高まりもあり、需要獲得のチャンスとの判断があるからだ。最近では、食べるラー油などのヒットをはじめ、ジュレタイプの調味料が登場し、食卓での利用に幅を広げるなど、話題に事欠かない数少ない分野だ。実際、大手はもちろん、中堅・中小メーカーも新製品開発に積極的に取り組んでいる。調味料・調味食品の受託製造企業もブランドオーナーへの新製品開発・提案などでその存在価値を高めている。一方、調味料・調味食品に関わる製造技術も、その高品質化やコストダウン等へ貢献する様々な進歩を見せている。そこで本稿では、調味料・調味食品の製造に関わる様々な技術にフィーチャーし、その最新動向を探るとともに、調味料・調味食品メーカーや受託製造・包装企業の取り組みを見ていく。

内食需要の高まりで好調な調味料市場

調味料・調味食品市場は、味噌や醤油、だし類などの伝統的な製品が苦戦を強いられる中、健康志向の高まりで麴を使った調味料の需要が拡大しているほか、内食化傾向の高まりに伴い、焼き肉のたれが好調に推移。鍋つゆも和洋中韓の新製品が相次いで市場に投入され、豊富なバリエーションで消費者の支持を獲得している。浅漬けの素は、子供のいる家族世帯への浸透拡大に成功。また、食べるラー油の大ヒットなども記憶に新しく、品目別での明暗はあるものの、活気ある市場を形成している。

なお、富士経済の調査による調味料・調味食品の2011年市場規模は、調味料（50品目）が前年比1.3%増の1兆5,204億円で、調味食品（24品目）も同1.9%増の4,748億円と拡大。2012年（見込み）については、調味料が同0.4%増の1兆5,267億円、調味食品が同0.5%減の4,722億円としており、2012年も2011年とほぼ同規模で推移した模様だ。調味料は、2011年に簡便性、汎用性、健康性などを訴求した商品が増加。つゆの素やドレッシング、マヨネーズ類、ぼん酢、すき焼きのたれなどの応用調味料が市場を拡大。2012年は、基礎調味料の横ばいが続いたものの、応用調味料向けの加工用需要が下支えしたと見ている。一方、調味食品は、2011年に家庭内用備蓄需要や中食化の進行によりレトルト商品やパスタソースなどの需要が増加。2012年は、備蓄需要の反動などでレトルト商品がやや減少傾向にあるが、具材や味にこだわった高価格帯商品が高い伸びを示しているという。

調味料・調味食品製造技術の動き

加工形態別に見ると、レトルト製品は小売用と業務用とを問わず、東日本大震災以降、家庭や病院・介護施設、学校、工場などでのストック需要が膨らみ、一時は供給が間に合わないほどだった。現在は落ち着きを取り戻した模様だが、それでもストックを定期的に消化しての補充需要が定期的に発生しており、以前よりもボリュームが膨らんだ。レトルト殺菌装置の性能アップも進み、従来よりも低温で内容物の熱変性を抑制

した高品質製品が増えているという。また、フリーズドライ製品やスプレードライ製品もここにきてスープなどでの製品開発が改めて進展している。無菌化包装技術を活用したパスタソースやつゆなどもその風味の良さと消費者の支持を拡大。通電加熱で固形食材も均一に殺菌できるジュール殺菌装置が固液混合調味食品の開発で普及する可能性が指摘されており、今後その動向が注目されている。

一方、調味料・調味食品の製造プロセスにあっては、原材料も含め、成分抽出・濃縮などの工程で分離・ろ過技術が広く活用されている点も見逃せない。技術的な進捗も目覚ましく、その生産性向上はもちろん、品質改善に大きく貢献している。

調味料・調味食品分野では、メーカーの海外市場展開も本格化しつつある。すでに大手企業の一部では、成長著しいアジア市場の新興富裕層を中心に需要を拡大し、生産・営業拠点の拡充を進展。原材料メーカーもすでに海外企業との提携などを通じ、現地生産・調達体制へのシフトを進める動きなどが浮上している。

調味料・調味食品に使われる製造装置企業の動向

分離・ろ過・精製・抽出

●金属製フィルター

荒井鉄工所（046-227-0461）は、先進的な金属製フィルターやろ過装置を飲料・食品分野や調味料分野などに展開し、豊富な納入実績を持つ。目詰まりや洗浄などの課題で同社金属製フィルターの優位性を評価する新規顧客の増加や、既存顧客の更新需要などもあり、近年も安定した受注を確保。その技術力と製品完成度がより一層評価を高めている。

同社製品の中で近年特に引き合いを強めているのが「MM-2スーパーフィニッシャー&MM-2ウルトラリファイナー」（写真1）。連続固液分離装置のロングセラー「MM-2横型フィルタースクリュウプレス」を裏ごしろ過用に特化したもので、高精度でなめらかな裏ごしを実現するとともに、フィルター目詰まりのない長時間安定連続運転を可能にした。ろ過抵抗が小さいため長寿命で、熱による加工製品の劣化もほとんどな